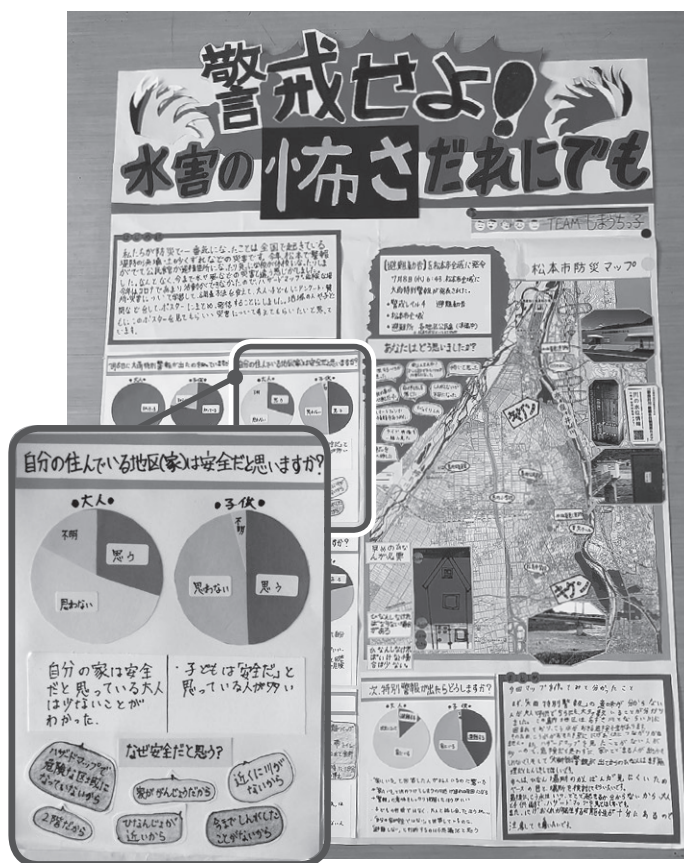




東日本大震災・長野県中部地震から10年...その10年は、子どもにとっては昔話かもしれません。ところが、昨年7月の豪雨災害、今年2月13日に福島県宮城を襲った福島県沖を震源とする最大震度6強の地震は、災害が我々の身近であることを、またもや突きつけました。今回は、災害に備える子どもたちの取り組みを紹介します。

防災

学び・備える

自分の命を守るために



令和3年3月1日現在

総人口	12,624人
男	6,161人
女	6,463人
世帯数	5,387世帯
電話	47-0264
FAX	40-1264

島内公民館

島内子ども会育成会

今年度、育成会では「水害をテーマに、防災マップ「警戒せよー水害の怖さ誰にでも」を作成しました。きっかけは、昨年7月豪雨の時「大雨特別警報や避難勧告が出ているのに、普段通り登校した。この行動は危険だったのか?」と疑問を感じたことです。

そこで子どもと大人合わせて約70名にアンケート調査をしました。「警報の意味が分からない」「ハザードマップの内容を知らない」との回答が多く特に、子どもの防災知識が少ないことが分かりました。

マップのまとめでは、「危険を家族で共に認識するために、ハザードマップを一緒にみて欲しい」と訴えています。この防災マップは、島内公民館に展示されています。

※家庭の実践例
・災害について、逃げ方など並段から家族で話す。
・避難場所を確認する。
・離ればなれになった時の集合場所を確認する。

・災害情報を確認できるサイトを共有する。
(アンケートから)

島内小学校・松島中学校

島内小学校4年生は、防災をテーマに、島内公民館で社会科見学授業を行いました。児童は防災倉庫内の災害備蓄状況や、避難所開設時の手順等について学習しました。

また、松島中学校生徒会は、松本市防災出前講座を生徒代表と先生等が受講しました。座学や防災倉庫内備蓄品を確認し、段ボールベットの組み立てるなど貴重な体験をしました。講座の様子はビデオ録画し、昨年12月の全校生徒集会で「災害時・地域に役立つ



2月27日(土)、松本音楽文化ホールにおいて「音楽が愛をつなぐ」をテーマに、ふれ愛コンサートが行われました。今年度はコロナの影響で子どもたちの発表の場が失われる

中学生へ」と題し発表されました。防災の目的である「命を守る」ためには、防災意識と地域防災力向上が大切であることへの理解が深まりました。



なか、「地域の子どもたちが未来へ向かって明るく羽ばたく場」「大人たちが子どもの成長を見守る場」とし、来場者を限定するなどの対策をして実施されました。

音文オルガニストの原田靖子さん、島立小学校 brass バンド部、松島・高綱中学校吹奏楽部の順に演奏され、観客も音楽に合わせて手拍子や振付を行うなど、楽しい演奏会となりました。

出演児童・生徒からは、発表の場が設けられたことへの感謝の言葉があり、保護者や地区関係者約140名から盛大な拍手が送られました。

松島中が地域貢献 生徒の思いをカタチへ

1月29日(金)、松島中学校生徒会のボランティア委員会は、これまで貯めたベルマークで交換した車いすを、地区内の福祉施設へ寄贈しました。

同委員会は、関澤美優前委員長の「地域へ貢献したい」との思いを引き継ぎ、車いすを施設へ贈ることにしました。そこで、河西部包括支援センターの長瀬センター長に相談し、早急に必要としている、まるのうちラクシア(介護付老人ホーム)と、ほつとハウスしまうちの家(認知症グループホーム)へ届けました。



らも学
校生活
を楽し
んでく
ださい
とお礼

山崎紗奈委員長と櫻井実咲副委員長からは「みんなが集めた気持ちを、ぜひ施設の方々のために役立ててほしい」と、思いの詰まった車いすと手紙が贈られました。



の言葉があり、しまうちの家庭では、車いすのお礼に入居者手作りの雑巾が生徒へ手渡されました。

両施設関係者からは「コロナが落ち着いたら、学校とも交流したい」との話があり、地域密着型運営の施設と中学校との間に、新たな交流の道筋が見えました。

歴史を つづける 四 長尾道

島内を通る塩の道には3つのルートがあり、梓川には「熊倉の渡し」「飯田の渡し」「長尾の渡し」がありました。長尾道は、安曇野市三郷の長尾地区に向かう道で、新橋から梓橋まで、県道48号の南側を、現在の大系線に沿って通っています。

南道路を渡ってコイン洗車場の北脇の細い道を西へ行くと、大宮神社前に出ます。ここで本来の道は線路で中断されているため、島高松踏切を渡ります。最初の角を西に向かうと梓川に出ますが、石碑と長尾の渡しの標柱があります。河原には現在マレットゴルフコースがあり、往時の広さを想像することができます。

線路で中断された道ですが、40年ほど前はまだ島高松駅の北側には大きな道がなく、大宮神社の祭りのときには、中



2月12日(金)、公民館委員を対象に、小谷村で雪中キャベツの収穫体験や住民との情報交換等を行う研修会が開催されました。

小谷で雪中キャベツ収穫

平成27年発足して5年。当初は健康麻雀だけでしたが、囲碁愛好家もいたため、一緒のクラブにしました。現在会員は60〜80歳代の13名で、毎週土曜日午後1時から5時まで対戦・対局しています。

ともに頭脳を駆使することから脳トレにつながり、仲間との談笑も楽しく、皆

わたしたちの活動①

小宮町会健康麻雀・囲碁クラブ

さん土曜日が待ち遠しくなっています。コロナの影響はありますが、「土曜の脳トレ」を多くの仲間とともに楽しく継続していきます。

(代表 二木恒親)



色とりどりの羊毛フェルト作品

島内公民館ギャラリー
ピアッザ



2年前から公民館で活動を開始した、ふわもこの会。キャラクター作品や季節を感じる小物などを制作し、この程初めての作品展となりました。

公民館の講座案内やギャラリー展示・活動の様子などを、松本市公式ホームページからご覧いただけます。

